

平成24年1月より、毎週本社医療事業部が発信している「情報エクスプレス」の中で、医療安全知恵の輪～放射線部門安全編～として、各施設における放射線技師が取り組む医療安全対策の紹介が始まりました。今現在本社が発信する「情報エクスプレス」でしか見ることができませんでしたので、これまでに紹介された平成24年2月までの分を転載いたします。

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

深谷赤十字病院 放射線科部 放射線課長 中山 進

Tel 048-571-1511 E-mail nakayama@fukaya.jrc.or.jp

あいさつ …

深谷赤十字病院は埼玉県北部に位置し、救命救急センター、地域がん診療連携拠点病院等の指定を受けた506床の地域医療を担う病院です。放射線科部ではスタッフ17名が、安全な医療の提供に注意をしながら日々忙しく業務を行っております。

深谷市は、近代日本経済の父と呼ばれる「渋沢栄一翁」の生誕の地でも知られ、「深谷ねぎ」は全国的に有名です。

ゆるキャラ「ふっかちゃん」共々よろしくお願ひします。

医療安全・知恵の輪の初回投稿を、日本赤十字放射線技師会会長の施設ということで投稿一号となりました。



ウチの取り組み！

当院のCT室のドアは自動引き戸となっており、数年前に患者の手の挟み込み事故が発生しました。構造に問題があった訳ですが、医療安全室を通じて院内で事故分析を行いました。安全対策として魚骨図などを通じスタッフ全員の医療安全の意識向上に取り組みました。今回の事例では上司への報告、事故時の対応を含め「報連相」の大切さを感じスタッフへの指導につながりました。



再発防止に向けて！

自動ドアの巻き込み防止用工事をお願いしたこと、注意喚起ポスターを作成し、各検査室に掲示し、患者様、スタッフ共に再発防止に努めております。



巻き込み防止カバー



医療機器管理責任者から一言

当院の医療機器管理責任者は、放射線技師長が担当しております。医療機器は各部署にて管理されておりますが、医療安全室や各部門と連携を図りながら、医療機器の安全使用に取り組んでおります。また、PMDAへの登録を行い、情報のいち早い取得、最新の情報の発信を心がけております。



医療事業部 医療安全課

次は 前橋赤十字病院 からお知恵拝借！！

平成24年1月13日 Vol.2

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

前橋赤十字病院 放射線部

TEL 027-224-4585 E-mail housyasen@maebashi.jrc.or.jp

当院は、群馬県の県庁所在地である前橋市にあります。平成21年2月からドクターヘリが導入され、県内はほぼ全域が20分圏内におさまります。また近隣の埼玉、栃木へも出動しており、高度救命救急センターとしての重責を担っています。放射線部としても夜間を二人体制とし、緊急の血管造影、MRI検査、CT検査全てに対応しています。



うちの取り組み！

群馬のお城！！群馬県庁

CTとMRIの造影検査については、放射線技師が検査前日に必ず検査内容と腎機能をチェックしています。CT検査については腎機能がCr1.3以上の場合は主治医に連絡をし、補液などの処置を行なっています。MRI検査についてはNSFの問題もありますので、Crではなく年齢や性別も考慮したeGFRの値をチェックしています。

将来的には、より安全性を考えCT検査についてもeGFRでの腎機能のチェックを行なえるように基準を作り始めています。

再発防止に向けて！

検査前の名前の確認を徹底してきましたが、病棟におけるポータブル撮影で名前間違い(同姓同名)が多発したため、名前の復唱に加えPDAによる患者様の確認をはじめました。これにより、同姓同名や、撮影者の思い込みによる人間違いが軽減しました。現段階では、ポータブル撮影のみですが、各検査室にPDAが普及すれば、全ての検査においてPDAによる確認が可能になり、名前間違いがなくなると思います。

PDA確認画面



患者様のネームバンドの番号とオーダー票の番号をバーコードで読み取り合致していれば○になります。

当院の移転も決まり職員全員がより良い病院作りにむけ、取り組んでいるところです。放射線部も患者様が、安全で高度な検査や治療がうけられるように、機器の精度管理や最新の技術の習得に努めていきたいと思えます。



医療事業部 医療安全課

次は 福井赤十字病院 からお知恵拝借！！

前橋赤十字病院

平成24年1月20日 Vol.3

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

福井赤十字病院 中央放射線部 上坂 大輔

Tel. 0776-36-3630 E-mail hoshasen@fukui-med.jrc.or.jp

冬の味覚の王様として代表される福井の「越前ガニ」は今が真に旬です。海の幸、山の幸と自然に恵まれた福井県はこれまで全国トップクラスの健康長寿で、「豊かさ指標・5年連続日本一」や「全国一の住みやすい県」として評価されてきましたが、昨年は「幸福満足度」でも日本一となりました。当院はさくら並木の名所として名高い「足羽川」の南に位置しますが、平成16年7月の福井豪雨による足羽川堤防決壊の際は、水害の真只中に立地する災害拠点病院として、地域住民の救援活動に貢献しました。



ウチの取り組み！



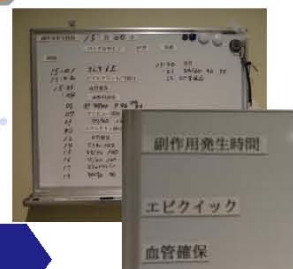
医療安全推進月間11月にCT室にて造影剤の副作用発生についてシミュレーションを実施しました。CT室内で医師、看護師、技師により、救急処置、挿管、応援医師要請等を含めて行いました。シミュレーションを実施するにあたって、マニュアルの見直し、また実践により技師も学習の場になったと思います。今回のシミュレーションをビデオ撮影し、DVD化、参加できなかった技師や他職種も救急対応の実感を学習できるようにしました。また、毎年、医療安全推進月間(11月)に合わせて、放射線部でもKYT危険予知トレーニングを行っています。なるべく全員が取り組めるように、メンバーを変更していきながら毎年、7、8人の技師で和やかに取り組んでいます。今年は、MRIの患者入室場面を題材に行いました。

再発防止に向けて！

事例：【CT造影検査終了後、様子観察確認後、外来へ戻ってもらった。外来待合室にて待っている間に、意識消失、血圧低下。ICU入室した事例が発生】
この事例をふまえCTおよびMRI造影検査後にある一定時間 経過観察をしていくことが必要であると考え、患者観察マニュアル運用の見直しを図り、CT・MRI造影検査後の患者経過観察(10分間)する運用にしました。
経過観察には
①患者さんには呼出しブザーを持って検査室前にて待機してもらう。
②何かあれば、ブザーで知らせてもらう。(検査室にてアラームが鳴る仕様)
③造影10分後(タイマーにて管理)、再度、患者さんの様子観察後、外来へ戻る。
これまで、軽度な副作用の人ではありますが待機中に早期発見しています。副作用の発見事例を積み重ね、垂即発症副作用の早期対応に努めています。



副作用の処置記録用ホワイトボードを造影検査全室に設置しました。また、各部屋、装置の時刻管理(1分以内)を徹底できるよう毎日始業点検時に確認しています。



医療事業部 医療安全課

次は 京都第二赤十字病院 からお知恵拝借！！

平成24年1月27日 Vol.4

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

京都第二赤十字病院 放射線科 氏名 西本 岳

Tel 075-231-5171 E-mail nishimotot@kyoto2jrc.or.jp

あいさつ

当院は京都御所の西側に位置し、明治45年に日本赤十字社京都支部常設救護所として開設され住民に対する施療が開始されました。昭和9年には東山東福寺岬に日本赤十字社京都支部病院（現京都第一赤十字病院）が設立され、当院は廃止の方針でしたが、地域住民の希望により業務は継続して行われました。その後名称は日本赤十字社京都支部中御門病院から昭和18年に京都第二赤十字病院に改称されました。レントゲン装置は昭和3年に導入、レントゲン科は昭和23年に設置されました。現在は25名の放射線技師がよりよい画像診断支援が行えるように日々努力を重ねています。



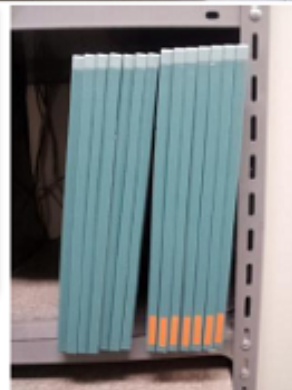
ウチの取り組み！

当院の放射線科では発生したインシデント、アクシデント事例を公開し技師間で情報の共有を行っています。また部門内セーフティマネージャーが中心となり事例の分析・対策を考え、医療安全と医療の質の向上に努めております。



業務上で行っているひと工夫！

ポータブル撮影時の注意としてカセットへの二重曝射・CRコンソールでの患者の読み違いがあります。当院ではこれらを防ぐため、カセット番号以外にわかりやすい漢字やアルファベットを使用し、ランダムにシールを貼り付けています。番号と記号の二種類をカセットに表記することで使用カセットに対する認識に、より注意を向けるため、撮影後の患者ワークシートへの書き込み間違いを防止すると共に思い込み撮影や読み込み間違いといったミスを無くせるのではないかと考えています。さらに二重曝射の防止のためにカセットの裾の部分にシールを貼り付け、撮影後のカセットがわかりやすいようにしました。取り組み始めて間もないですが、少しでも業務上のミスが減らせればと考えています。



当院で行っている試み！

放射線被ばくについて医者や看護師・他のコメディカルの方々に正しい知識を持ってもらうように勉強会を開いています。普段何気に使用しているポケット線量計やフィルムパッチの仕組みについての講演を病院内で積極的に行っており、少しでも興味を持ってもらえるように努力しております。



医療事業部 医療安全課

次は 秋田赤十字病院 からお知恵拝借！！

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

秋田赤十字病院 放射線科部 技師長 吉田 庄左衛門

TEL 018-829-5000 E-mail marusyou28@archosp-1998.com

あいさつ

秋田赤十字病院は496床、第三次救急を伴う中核病院として地域医療への貢献という大きな責務を負っております。

今年1月にはドクターヘリの運用も始まり、秋田県民へのより質の高い医療の提供を目指しています。山積する課題も多々ありますが、スタッフ一同が、患者から信頼される職場でありたいと日頃から業務に取り組んでおります。

このように多忙な環境でのストレス解消のひとつに温泉があります。しっとりとした泉質が疲れを一掃してくれます。また今の時期、地酒を飲みながらの雪見酒も乙なものです。みなさん機会があれば是非おいで下さい。



冬の風物詩
機手のかまぐら
(通常ver.)



秋田白鷺 (外観)



今流行りのかまぐら
(ラブver.)

当科部の取り組み・再発防止に向けて！

当院では、平成18年に電子カルテとRISシステムが、平成23年にはフィルムレス(完全デジタル化)に各々システムが移行されました。

●放射線科部外来患者の動き(ワークフロー)

- 1) 自動受付機にて受付処理を行う。
- 2) 自動受付機から発券された「受付票」に記載された撮影室前で待つ。
- 3) 番号で呼ばれたら撮影室に入り「IDカード」・「受付票」・「外来スケジュール票」を技師に渡す。
- 4) 撮影後、受付にて「外来スケジュール票」を受け取る。以上が一連の流れです。

少子化・高齢化が最も進む秋田県です。高齢者は以前から撮影手順(経路)が分からない、名前の聞き間違い…等に伴うトラブル・インシデントが多々ありました。技師が「患者ID」や「名前」をフルネームで確認することにより、患者の取り間違いや誤った撮影の防止に繋がっています。

いくらハイテク化・デジタル化になろうとも、最後は術者である我々人間(技師)が機器の操作及びそれらを取り扱うこととなります。ヒューマンエラーは付き物です。個々の日頃の体調管理、職場の環境改善はいうまでもなく、精神的にゆとりをもって日常業務が遂行できることを心掛けています。



放射線科部受付

RIS受付機
(ここから受付票が出ます)

おわりに

先の大震災で被害に遭われた多くの皆さんに深く哀悼の意を表します。

当院は最小限の被害で済みました。地震発生当日から第1班の救護班を立ち上げ、5月11日まで計46救護班、のべ286人の災害派遣を行いました。今回の教訓として、声を掛け合う重要性を改めて痛感しております。

この先も、人と人との触れ合いを大切にしたいと思います。



放射線科部技師一同より

平成24年2月10日 Vol.6

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

旭川赤十字病院 医療技術部放射線科 野村 和弘

Tel 0166-22-8111 E-mail housyasen2120@asahikawa-rch.gr.jp

あいさつ

旭川市は、北海道の中央部に位置し大雪山連峰の麓にある北海道第2の都市です。近年、行動展示として旭山動物園が全国的にも知れ渡り沢山の人が訪れるようになりました。

旭川赤十字病院は、救命救急センター、地域医療支援病院として、又2010年よりドクターヘリの基地病院として、広域な範囲を飛行する道北道東の救急及び地域医療に貢献する病院です。

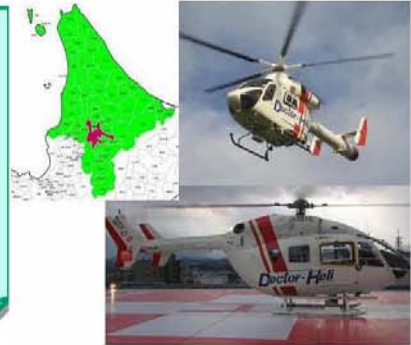
放射線科は、医師3名、放射線技師24名、事務職員5名にて業務を行っています。

ウチの取り組み！

当院は、脳卒中を中心に24時間体制で、当直技師全員がMRIを撮影しています。救急患者様はもとより入院中の患者様の検査も多く、天板と寝台及びガントリへの手指及び点滴ルートの巻き込みなどの危険がありました。

関連メーカーと対応を協議し、巻き込み防止器具の設置をしました。

MRIは、2台あり1台は純正部品にて、もう1台は発泡ウレタンを自作し対応しました。



再発防止に向けて！

今春、3台目の3TのMRIの導入予定が決定しており、更なる事故防止策の検討がなされております。

MRI室に関係する職員はもとより他の職員にも、より一層確認を怠らず事故の無い様、スタッフに注意喚起しています。



インシデントレポートの提出には抵抗がありますが、同じミスを繰り返さない為の参考書になります。

小さな事例から提出を心掛けてみては如何でしょうか。



医療事業部 医療安全課

次は 足利赤十字病院 からお知恵拝借！！

平成24年2月17日 Vol.7

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

みすたに

足利赤十字病院 所属 治療・核医学課 氏名 簾谷 和男

TEL 0284-21-0121 E-mail k.misutani@ashikaga.jrc.or.jp

はじめまして、平成23年7月1日に移転し、一般病室は全て個室！豊富な地下水と風の自然エネルギーを利用した先駆的ECO病院からリニアック室(放射線治療室)を紹介いたします。

装置名はELEKTA社Synergyで、3DCTを撮影してから位置合わせを行う画像誘導放射線治療(IGRT)が得意で、定位放射線治療(SRS)や原体照射に強度変調機能(IMRT)を加えた治療(VMAT)が可能です。



うちの取り組み！

安全管理として毎朝1時間ほどかかって実施するCube Phantomを使った幾何学的検証と、電離箱線量計を使ったエネルギー検証などを行っています。

また、治療を受ける方は月曜から金曜日まで約1か月間毎日来ますので、リラックスできる環境を心がけています。具体的には、室温をやや高めに設定する、心地よいBGMを流す、ちょっとした世間話などの声掛けです。

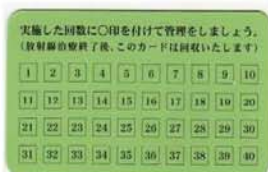
一番大変なのは、患者さまの名前と顔を覚える事でしょうか！放射線治療が完了した後も、よく院内で逢うと声を掛けられ・・・名前は何と困る事があります。

再発防止に向けて！



リニアック室では、以前から紙の放射線治療照射録に患者さまの顔写真を貼って運用してきましたが、現在では更に紙製の“リニアック室受付カード”を作り バーコードを読取る事で患者選択違いを防止しています。

裏面には治療回数を管理するCheck Boxがあり、患者さま自身が印を付ける事で、残回数がわかり重宝しています。



現在スタッフは、高精度な放射線治療実施に向け毎日夜遅くまで検証作業に追われ、やや疲れ気味ですが頑張っています。



医療事業部 医療安全課

次は 安曇野赤十字病院 からお知恵拝借！！

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

安曇野赤十字病院 放射線科部 関 利明

TEL 0263-72-3170 E-mail rad-info@azumino.jrc.or.jp

NHK朝の連続テレビ小説[おひさま]の舞台になった。長野県は、北アルプス常念岳のふもとに位置する、自然に恵まれた安曇野にある地域の中核病院です。2011年1月に新築移転、グランドオープンしました。



うちの取り組み！

院内には、専任の医療安全管理室が設置されています。インシデント等が発生した場合、院内イントラネットを利用したレポート報告システムになっています。問題が発生したら速やかに上司に報告、レポート作成後担当上司は要因と対策を明確にして医療安全管理室に報告します。

委員会は月1回開催され、インシデント報告、症例検討をして情報の共有、再発防止に努めています。



再発防止に向けて！

患者さん間違いは、日常業務で発生する事が予想され、診断、治療に甚大な被害をもたらします。私たちは、あらゆる場面で患者さん確認のルールを守ります。

- ★ 患者さんに名乗って頂く
 - ★ 名乗れない場合はリストバンドで確認
- 習慣になるよう徹底的に教育しています。

寒い日が続きます。南の暖かい島で休養したいです。

心のゆとりと適度の緊張で安全な良い業務をめざしましょう。



医療事業部 医療安全課

次は 飯山赤十字病院 からお知恵拝借！！